

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300680&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、近隣の方のご好意で山菜摘みや、茶摘をさせていただいている。また、気軽に喫茶が利用できるように、エリア内でボランティアの方が行っている喫茶に出掛けている。一泊旅行を実施する等、施設に入居してしまった事で今まで行って来た事が制限されてしまった(出来なくなってしまった)と思う事が一つでもなくなるように、利用者様の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護度の低い利用者が多く、ホームの家庭的な雰囲気の中で、自分で出来ることを選択しながら、笑顔で生き生きと暮らしている。職員は、利用者一人ひとりのリズムに合わせ、優しい言葉をかけ、ゆとりのあるケアを行っている。さらに、利用者の今までの生き方が継続できるように、地元の風習を行事に取り入れれたり、馴染みの名所や一泊旅行にも出かけている。法人の組織力を活かした職員研修の充実、法人内外の介護・医療の安心できるバックアップ体制を整え、情報等も共有しながら、質の高いケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分でできること、自分で選ぶことを大切にす』という運営理念を事務所に掲示し、毎日の介護の中でどのようにしたら利用者様にしているか、また選んでいただけるか考えながら行っている。	住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしを目指して「自分でできること、自分で選ぶことを大切にす」を、理念としている。理念は、朝のミーティングで確認し、共有している。日々、暮らし方を自分で選び、思いが叶うよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、中学校との交流、町内で開催される生涯学習まつりへの作品展示や発表会鑑賞、町内の図書館の利用、また、地元の店を利用し少しでも多くの方と交流ができるよう心掛けている。	公民館で行われる茶話会に参加し、町内で開催する作品展に、利用者の作品を展示したり、町内の保育園、中学校とも交流している。また、近隣の茶畑で茶摘みをしたり、図書館の利用や地元商店での買い物等を通じ、日常的に交流している。	法人の方針で、自治会への加入はしていないが、公民館での茶話会に参加するような地道な交流を今後も継続し、さらに活動の輪を広げられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エリア内で発行している広報誌により、地域の老人会、婦人会、町内会等各種グループに呼び掛け出前講座の実施を行っている。また、中学校の福祉体験の場として活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と触れ合う時間(行事への参加、作品づくり、レクリエーション等)を設け、利用者様の身体・精神状況を知っていただき、その後、サービスの報告を行い意見をいただき、介護に活かしている。	会議は、2ヶ月に1回開催され、行政・民生委員・在宅介護支援センター・家族等が参加している。出席者からの意見・提案から、感染症予防対策や広報誌の配布、出前講座・ふれあいサロンなどの実施について話し合い、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や入退院・入退居の報告をしたり、役場に出かけた際には、近況を報告している。	町の担当者へは、定期的に運営状況を報告し、日ごろから連携を取っている。法人が企画した「出前講座」を、行政と連携し、地域住民に行っている。「出前講座」では、介護保険・介護予防・認知症理解等の普及に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルがあり、常に目を通せるようにしている。玄関は見守りが十分出来ない場合を除いては常に開錠しており、万が一出られた場合でもすぐに呼び止めるのではなく、見守り様子を見ている。	身体拘束に関する研修を定期的に行い、拘束のないケアを実践している。玄関は常に開放し、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	実践者研修及び、岐阜県居介協の実施した情報公表対応研修で学んでいる。また、法人でマニュアルを作成している。虐待と思われるような行為があれば、管理者に報告し、防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用しなければならない利用者様はみえないが、職員は研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問点を尋ね、あれば納得がいくように説明を行っている。改定の際には家族会で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行っている。また、面会時に話を伺い、意見があれば職員会議やエリア内での会議で検討し、議事録や申し送りノートに記入し職員全員に周知で出来るようにしている。	家族の訪問時に、話し合いの機会を設けて意見等を聞いている。利用者からは肯定的な意見が多いため、職員から意見を引き出すように努めている。自宅での排泄習慣や食事習慣を聞き取り、参考にして、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を開催し、意見交換、意見・提案があれば話し合っている。また、会議以外でも話を伺っている。	月例の全体会議で話し合っており、職員からは、「昔の古い祭りを事業所で再現できないか」「安全のために車のドアを自動ロックに改造しては」等の提案があり、実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にして職員の勤務状況を把握している。また、本人の望む研修に参加できるよう勤務を調整したり、家庭の事情等を考慮して勤務を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修への参加。一般の研修やセミナー等、興味のあるものに参加できるよう勤務の調整を行い、質の高いサービスの提供が出来るよう努めている。また、研修の報告や意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には同業者がない為、法人内のグループホーム7ヶ所ですべて2ヶ月に一回、向上委員会を開催しサービス提供に関する情報交換、勉強会、職員研修を行っている。また、研修で知り合った方に話を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様には直接聞き取りをする機会を設け、ご家族からも状況を伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状等を伺い、具体的にどんな事に困っているのか話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、利用者様、ご家族様の立場に立って利用者様の「その時」を見極め、何が今一番必要な状況であるのか、見極め、助言、対応している。サービスの利用に当たっては、上司に報告・相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に掃除、洗濯、調理、野菜作り等行ううえで、教えていただいたり、昔の話を伺ったり、一方的な介護にならない様、自分も学ぶ姿勢に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ面会に来ていただけるようお願いし、家族参加の行事を取り入れ、一緒に過ごしてもらう時間を設けている。毎月、近況報告をし、本人様の状況を理解していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービス利用者の知人との交流や、近くに住む姉妹宅の訪問、年賀状等のやり取りを行ったり、地域で開催される行事や店に出掛ける様にしている。	隣接するデイサービス利用者の知人・友人と交流できるよう、場所を提供し、相互に行き来している。馴染みの喫茶店・商店・図書館・地域の行事等へ継続的に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高度の難聴の利用者様には職員が間に入り、他の利用者との間を取り持っている。レクリエーションを行う際には、利用者様同士で誘い合ったり声を掛け合っている。また、誕生日を皆で祝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退居後も、必要に応じて利用者様の情報交換をし、また、エリア内の特別養護老人ホームに入居された場合、訪問した際には言葉を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は個人のケースに記入し、職員全員が把握できるようにしている。伝える事ができる利用者様に関しては、出来るだけ希望に副えるよう努め、出来ない方に関しても、家族や知人から情報を得よう努めてはいるが、まだ不十分である。	日々のケアの場面や暮らしの中で、思いや希望を聞き把握している。思いや意向は、「暮らし方シート」に記録し、職員間で共有している。家族からは、自宅での生活様式や習慣を聞いて情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の用紙を一部活用し、情報を収集している。本人様には日常の会話からも情報を収集し、ご家族や知人からも収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づいた事、状態の変化等はケースに記入し、常に申し送りをし、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人様にも会議に参加していただき本人様の希望は基より、ご家族の希望も聞きながら介護計画書を作成している。	家族からは、日頃の関わりの中で、希望等を聞いている。また、検討会議にも、本人・家族が参加して話し合い、介護計画を作成している。本人・家族の希望に変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、利用者様の行動・会話等の区分けをし、日常生活の変化に気づき、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって受診の付き添いや、利用者様の個人的な外出の送迎を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな利用者様には、定期的に図書館を利用していただき、好みの本を選んでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居する前にかかっていたかかりつけ医がほとんどである。家族の希望で定期的に往診をお願いしている利用者様もみえる。また、緊急時に往診をお願いする事もある。	入居前からの、かかりつけ医を継続している。定期受診は、家族の役割りとなつているが、家族の都合や緊急時、様態により事業所が柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時応じて、隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり診ていただいている。また、担当の保健師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	木沢記念病院の地域連携室の職員と連絡を取り、情報交換をしている。また、直接、利用者様と面会し、担当看護師に話を伺うこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の病状の変化には、ご家族様、主治医と連絡を密に取り、今後の対応方針、緊急時の対応を相談。ご家族様と話し合い、利用者様、ご家族様の意思の確認を第一に支援している。また、重度化した場合も意向を重視し、主治医の診断に従い支援する。	重度化・終末期の対応方針があり、家族に説明している。2人介護の必要や医療的な対応が生じた場合は、他の施設か医療機関に移ってもらう方針である。その際は、円滑に移れるように関係先と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急救命講習に参加し、年2回、隣接するデイサービスセンターとの合同防災訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。運営推進委員会の方にも訓練に参加していただいている。地域の方にも関わっていただけるよう、夕涼み会等の行事に参加を呼び掛けているが、なかなか難しいところがある。	年に2回、消防署の指導で避難誘導訓練を実施している。緊急通報装置やスプリンクラーも設置し、職員が確実に避難誘導ができるように、自主訓練も行っている。地域との協力体制は、話し合いが継続している。	昼夜を問わず、職員だけでの対応に限界があることを想定し、近隣住民・家族との協力体制を築くよう引き続き努力されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちになり、不快な思いをさせないよう努め対応に心掛けている。トイレに誘う際には傍で言葉掛けを行ったり、職員同士の申し送りを紙に記入し、大声で申し送りしないようにしている。	誇りやプライバシーを損ねないように、個々の人格を尊重し、優しい言葉かけを行っている。トイレ誘導の際は、他者に気づかないように気配りし、大声で話しかけたり否定しない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念にも掲げているように自己決定する事を大切にし思いや希望を表せるよう、また自己決定できるような言葉掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の身体状況を把握し、個性を大切に、また本人様の意思を確認し支援している。夜間の入浴を希望される方には入浴していただいたり、朝が苦手な方にはゆっくり休んでいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用し、毛染めやパーマ等、本人様の希望で行っている。お化粧をしたい方には環境を整え、自分で出来るように支援している。洋服も好みを伺い着いていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ準備や片付け等を行っている。エリアの栄養士が作成した献立を、利用者様の好みや希望で変更し、旬の物や行事食や郷土料理を取り入れている。また、『お楽しみ昼食会』等の行事で職員も利用者様と同じ食事をしている。	利用者は、食材の買出しに職員と同行し、下準備や片付けも行っている。調理には、旬のものや郷土料理を取り入れ、食事を楽しめるよう工夫している。ホーム行事を兼ねた「お楽しみ昼食会」の調理は、利用者が主役で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	エリア内の栄養士に変更した献立表を提出し、栄養バランスをみていただく。こまめに水分補給が出来る様、お茶や清涼飲料水を常備し、水分摂取量の少ない方には飲み物の種類を変更したり、時間を空けて勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、能力に応じ介助している。義歯の方には週に1回ポリドントでの洗浄を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人をよく把握し、その人に合った排泄時間で言葉掛け、誘導、介助を行っている。夜間も誘導し、オムツを使用しなくてもいいように支援している。利用者様が不安にならないよう職員が情報を共有し同じ対応が出来るようにしている。	個々の排泄パターンを把握し、職員間で周知している。さりげなくトイレに誘導し、自立を支援している。夜間も、こまめに誘導し、オムツの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、朝食にヨーグルトを取り入れたり、こまめな水分補給に心掛けている。日中は体を動かすような支援をトイレ利用時に腹部マッサージを行っている。便秘気味の利用者様には主治医に相談し、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を聞き、入浴を行っている。また、毎日入浴したい方には毎日出来るようにしている。昼間の入浴でもゆっくり入浴ができるよう心掛け、柚子風呂やみかん風呂等、楽しんで入浴できるよう工夫している。	週に3回の入浴日を設けているが、希望があれば毎日でも可能である。また、夜間に入浴習慣のある人にも応じている。消極的な人には、仲間が促し、柚子やみかん風呂で、ゆったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後に限らず、本人様が希望されれば臥床して休んでいただき、朝、起床できない方については、本人の意思を尊重し見守りを行っている。居室の温度・明るさ等の調節を行い、安心して休める様心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋が綴っており、変更があった際には申し送りをし、直ぐに新しい情報が得られるようにしている。確実に服薬が出来る様、服薬チェック表(薬のセット、服薬確認)を作成し活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事、生活ぶりの情報を得て、野菜・花を育てたり、調理、掃除等を行っている。本人様の希望で本を借りに出掛けたり、ドライブに出掛けている。その人の思いや希望に合わせて気分転換等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望に副って、1日1回でも戸外に出かけられるよう気候の良い日は散歩に出掛けたり、買い物、ドライブ、図書館等に出掛けている。また、知人宅等の個別の希望にも添える様努めている。	毎日、近くを散歩したり、職員と食材の買出しに同行している。また、町内の商店や道の駅、図書館にも日常的に出かけている。年に1回は、法人のバスで、日帰り旅行や一泊旅行に出かけている。	

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームの事務所にて少額を管理している。スーパーでの買い物では利用者様に支払いをしていただいている。外出の際には個人のお金を持参し、個人物は自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようになっている。電話を希望される方には職員が傍で支援して話をしていただいている。また、暑中見舞いや年賀状等を家族や、知人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・食堂ばかりではなく、浴室、トイレの温度にも気を付け不快にならないようにしている。同じ様な戸ばかりの為、浴室・トイレ・居室を間違えやすい方の為に、大きな字の張り紙をしている。また、四季に応じた壁飾りを作成し飾ったり、花を飾って季節感を出している。	天井が高く、日当たりの良い、落ち着いた共用空間がある。利用者の手芸品や生活のスナップ写真、四季に応じた壁飾りなどにより、生活感や季節感を出している。長い時間を過ごす居間は、対面キッチンで、調理の音や香りを身近に感じて、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外でも椅子、ソファを設置し、いつでも自由にくつろげる様にしている。また、居間の棚にはいつでも使用できるように本や折り紙、色鉛筆、歌詞カード等余暇の道具が置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた物や、今まで本人様の部屋に置いてあった物を、大切にしている物等を持ってきていただくようお願いをしている。また、居室担当者が本人様と一緒に作った作品を飾ったりしている。また、写真や賞状等、思い出の物を掲示している。	居室からは、窓越しに景色が眺められ、年代物の家具や鏡台などで、落ち着いた環境づくりをしている。家族の写真や表彰状、手芸品・人形等、思い出の小物を飾り、安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、判りづらい場所には大きな字で張り紙をしている。書籍やレクリエーションの道具がいつでも取り出せるようになっている。		